国際的な知見を得る

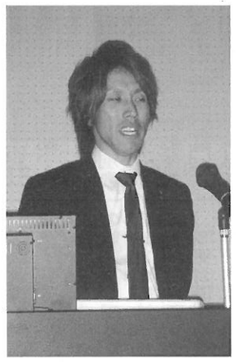
大曲農業高校

大曲農業高校（伊東金一校長）で21日、一般社団法人KIP（知日派国際人育成プログラム）、中谷RIESフェローシップの学生との交流事業が行われた。KIPは2008年に発足した「知日派の国際人」育成を目指す、大学生、院生を中心とする会員制の討論グループ。今回の授業は、KIPの地域研修の一環で、日本各地を訪れ、文化、伝統を学び、地元学生や地場産業従事者との討論会を通じ、地方の現状と課題を考えることを目的とするもの。中谷RIESフェローシップは、公益財団法人中谷医工計測技術振興財団が平成28年度に立ち上げた日本及び海外の大学生を対象とした国際交流プログラム。KIPの東京大学、慶應義塾大学他の日本人学生12人、中谷RIESフェローシップのアメリカ人学生14人が大曲農業高校の生物工学部員7人、農業科学科生徒1人、秋田大学、国際教養大学、秋田県立大学生徒9人と交流した。

大講堂に集まった学生達

事業は県内の大学生を含む日本の大学生とアメリカの大学生とともに県の抱える農業及び環境問題についての議論を通じ、国際的な考えに触れることで、より良い秋田県の未来を実現するよう、新たな知見を身に着けることを目的としている。

初めに大講堂で秋田県農業近代化ゼミナール「わかじぇファーマーズ」の齊藤拓事務局長が「本県の農業の実状と課題について」と題し講演を行った。

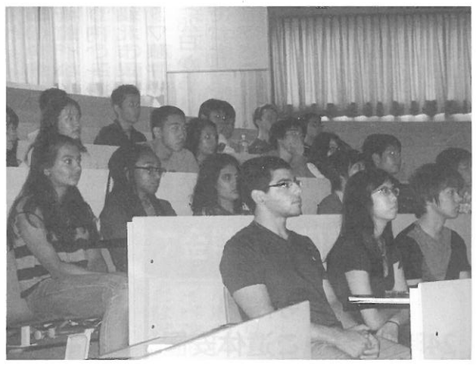


講演をする齊藤さん

わかじぇファーマーズは大仙市、美郷町、仙北市の若手農家20人で販売力強化や他農業者との交流、情報交換、地域活性化を図るため、結成したグループ。

講演ではJA秋田おばこの農作物販売実績が示され、秋田の農家の米依存度の高さと、あきたこまちの価格が年々値下がりしている事も説明された。

そして、仙北市の農家が米依存脱却を図るために栽培している作物の「アスパラ」、「トマト」、「しいたけ」についてと、今後栽培が構想されている「ブルーベリー」、「シャインマスカット」を紹介した。



講演を聴く学生達

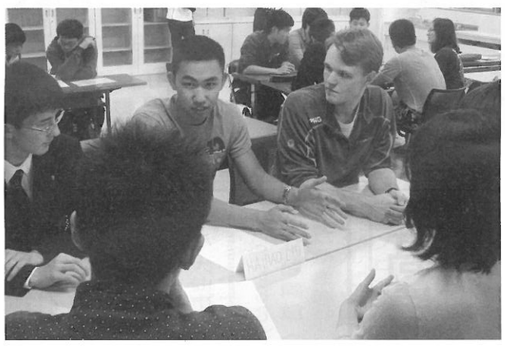
その後、日本の農業の問題点を話し、今後取り組む課題として、農家の法人化、県産作物の新たなブランド化の提案、農商連携を挙げた。

続いて生物工学部員による「あのすばらしい湖をもう一度」と題した講演が、英語で行われた。酸性の田沢湖の水をクニマスが住めるよう中性化するための実験結果について報告。実験は秋田大学と共同で行われた。生徒は、水を電気分解して、中性化するためにかかるコストを表で説明した。

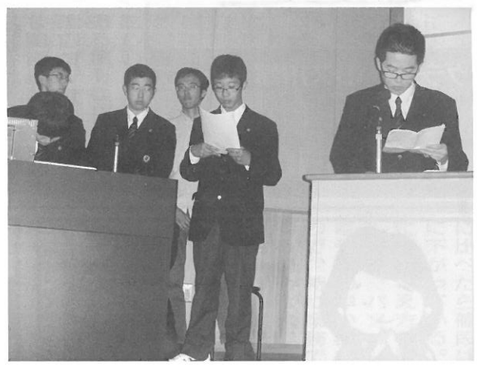
農業経営実習室で行われた、ディスカッションでは、テーマを「一次産業の実務活動を公教育に導入すべきか、否か」とし、各校の生徒がテーブルごとに分かれ、活発な議論を交わした。

その後、各グループの代表が意見をまとめ発表した。「食卓に並ぶ野菜がどこで作られているのかを知ることは大事」、「農業に触れてみることは、新しい後継者の育成にもつながる」、「付け焼刃的な導入なら効果は薄い」といった意見が出た。

生物工学部員の佐々木大渡さん（17）は「ディスカッションで食の安全性についてアメリカの学生と話してみて、国によって認識が大きく違うことがわかり、改めて日本の農業に感謝しようと思った」と話した。



活発な討論が行われた



研究発表する生物工学部員

福原定吉翁伝 ⑧

厳父寅吉翁の思い出

ここで翁の厳父福原寅吉翁と、慈母ツヱ刀自について触れてみたい。

寅吉翁は幕末の大激動期であった安政元年（一八五四年）八月二十一日、大曲村寺町四十八番地に生を享けた。本来は福原家の家督を継ぐ相続人であったが、前述のとおり分家して、旧高梨街道と福辺内川が交わる要衝の一角で米商、海産物商を営んだのは、明治十八年、寅吉翁が三十一歳の春であった。以後、寅吉翁は実に刻苦勤勉された努力家で、世間の信用もいよいよ厚く、商売は順調に発展して、住宅を増築し、土蔵を建て、宅地や田畑を買い求めて成功した、手堅い実業家であった。

大正元年発行の飯村稷山著『仙北郡案内』によると、大曲町の物品販売業「五十集商」（干物）に大坂久治、福原寅吉、東海林彦八、伊勢多郎八、最上正吉、と印刷されているが、寅吉翁は福辺内川を境にして、その東方一帯の戸時、戸地谷、高梨、横堀、長信田に至る農村を自己の商圏として、農民に魚類（干物）や日常雑貨品を売りさばき、その代金として農民から米を買い集め、福辺内川の船着き場から百五十俵～二百俵の米を川船に積んで出荷したのであった。屈強の若勢が四、五人で、福原商店から米俵を肩にかついで、福辺内川に泊る川船に積みこむ光景は、出来秋の壮観な風物詩であったが、同時にそれは躍進大曲の象徴でもあった。

寅吉翁は海産物や日常雑貨品の仕入れに、始終、丸子川畔の船着場（港）に出かけており、家で急用が生ずると、子どもの翁が呼び出しに港へ行った。翁が幼年の明治三十年から三十六、七年ごろまでが川船の全盛時代で、翁の記憶によると、丸子川の港はもとの大柳が生えていたところ（大柳は昭和二十九年九月十九日伐採）から仙北医院うしろにかけた川岸一帯で、両岸には浜倉が軒を並べていた。現在の泉旅館付近には商取引をする「大納屋」が建っていて、そこは寅吉翁たち米商人、魚屋の溜り場で、幼い翁が顔を出すと、「定吉坊や、よく使われてやってきたな」と誉められ、駄賃にせんべいなど貰ったものであった。

現在の斎忠商店うしろから料亭「川端」に至る川岸は、鬱蒼たる森林が生い繁り、これを「八郎林」と言い、大曲の商人は船が着く時刻になると、「八郎林」に出かけて船を待っていた。そこは丸子川と雄物川の合流点で、遥るか出羽丘陵の山並みが望まれたが、やがて神宮寺岳のふもとにぽつんと白い帆が見えると、見張り番は「さあ、船が来たぞう」、「船が着くぞう」と勇み立ち、にわかに浜は活気を呈した。

丸子川の港には二、三十石積みの川船が多く出入りしたが、明治の中期には大曲の松太郎船、富松船、権四郎船が有名な大型船で、千俵積みだったといわれ、その白い帆柱の上には「うみねこ」が数羽飛びまわっていた。船に残る磯の香が土崎港から「うみねこ」を大曲まで誘ってきたのであろうか。そして大曲仙北の米はここから積み出され、雄物川をくだって土崎港へ、その帰り船には海産物・衣類・塩・砂糖・荒物・小間物などを仕入れて逆上っていた。こうした川船が毎日、二、三十そうも出入りして、浜はごった返し、荷がおりると、「大納屋」で威勢よくセリ市が始まった。首尾よく取引きが決まると、シャンシャンと手を叩き、「権四郎の家（元の枕流館）へ行こう」「八幡丁の飯田屋、熊谷楼へ行こう」と誘い合って、商人や船頭が酒杯を汲み交わし、連日連夜、豪遊したものであった。それほど大曲の川船時代は、商業も八幡丁かいわいも、殷賑を極めていたのである。（以上は翁の懐古談による）。

医療法人 ヒロデンタルプロデュース プロネマルク・インプラントセンター
お口の悩み、解消しませんか
一般歯科・小児歯科・口腔外科
タケダ歯科　秋田インプラントクリニック
大仙市飯田字大道端3－1
診療時間 朝9時から夜7時まで　休診日 水・日曜日、祝祭日
0187-62-6480（ムシバゼロ）
ホームページと携帯からもカンタンに予約できます。まずはアクセス！
URL www.hiro418.net
携帯 www.hiro418.net/ti

信頼と安心で企業をサポート！
<業務内容>
1. 会計・税務顧問、記帳代行、月次巡回監査
2. 建設業の経営改善対策、経審対策
3. 事業承継コンサルタントとして相続対策、事業承継対策
4. 企業の存続と発展を目標としたM&A業務
税理士法人 日本未来経営
税理士 鈴木典男
税理士 鈴木雅人
税理士 鈴木玲子
大仙市大曲田町413番
TEL：0187-63-2959
FAX：0187-63-2991
詳しくはhttp://www.suzuki-tax.jp

人のそばに、夢のそばに。
Yamani
（株）山二大曲SS
大仙市戸時字谷地添79-1
☎0187－63－1336

ヘアメイク バレンタイン
大町店 ☎0187-62-6777 大仙市大曲大町3-6
VITA ☎0187-62-3399 大仙市佐野町195-3
バウンスルーム ☎0187-88-8717 大仙市福田町7-5

■診療科目
内科・消化器内科・循環器内科・小児科
木村内科医院
■診療時間

	午前	午後
月～金	8:30～12:15	2:00～6:00
土曜日	8:30～12:15	2:00～3:00
休診日	日曜・祝祭日	

往診応需　木村靖和
大仙市大曲中通町3-3（旧医院隣り）

循環器内科 内科 小児科
池田医院
院長 池田芳信

診察時間	午前	午後
月～土曜日	9:00～12:00	2:00～5:30
休診日	日曜日・祝日	

大仙市大曲中通町4-20 ☎0187-63-3338

★大仙市民特別企画★
大仙市在住の70歳代以上の方へ
ご宿泊を特別価格でご奉仕します！
おおつな70プラン　70歳代の方・2名様　ご宿泊（1泊2食）　お一人様6,000円
おおつな80プラン　80歳代以上の方・2名様　ご宿泊（1泊2食）　お一人様5,500円
※1室2名様以上のご利用となります。※部屋数には限りがございます。
※大仙市在住及び年齢を証明できるものをご提示願います。
ご予約お問合わせは 0187(87)3100　指定管理者 新生ビルテクノ株式会社
エメリア